



制定日 2010/9/29

改定日 2020/7/7

安全データシート (SDS)

1. 製品および会社情報

製品名	クリントール FC
製品の種類	粘着ゴムロール用クリーニング溶剤(クリーンダッシュロール専用)
会社名	テクノロール株式会社
所在地	〒594-1144 大阪府和泉市テクノステージ3-4-5
担当部門	技術本部 化学部門
電話番号	0725(53)3933
FAX番号	0725(53)3922
E-Mail	tech@technoroll.co.jp
管理No.	No. MD-CTFC03

2. 危険有害性の要約

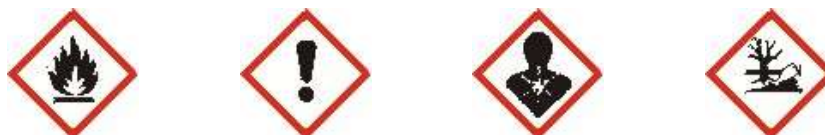
<GHS分類>

物理化学的性質	引火性液体	区分2
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	区分外
	急性毒性(経皮)	区分外
	急性毒性(吸入:ガス)	分類対象外
	急性毒性(吸入:蒸気)	区分4
	急性毒性(吸入:粉塵、ミスト)	分類できない
	皮膚腐食性・刺激性	区分2
	眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	区分2A
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	区分外
	特定標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分2(血管) 区分3(麻酔作用、気道刺激性)
特定標的臓器/全身毒性(反復暴露)	分類できない	
吸引性呼吸器有害性	分類できない	
<環境に対する有害性>	水生環境有害性(急性)	区分1
	水生環境有害性(慢性)	区分3
<国/地域情報>	なし	

注) 記載なきGHS分類区分: 該当せず/分類対象外/区分外/分類できない

<GHSラベル要素>

絵表示



注意喚起語

危険

危険有害性情報	H225 : 引火性の高い液体及び蒸気 H319 : 強い眼刺激 H315 : 皮膚刺激 H332 : 吸入すると有害 H335 : 呼吸器への刺激のおそれ (気道刺激性、麻酔作用) H336 : 眠気又はめまいのおそれ (麻酔作用) H371 : 臓器の障害のおそれ (血管系)
環境に対する有害性	H400 : 水生生物に非常に強い毒性 H412 : 長期継続的影響によって水生生物に有害

<注意事項>安全対策

- P210 : 熱、高温のもの、火花、裸火及び保管の着火源から遠ざけること。禁煙。
- P233 : 容器を密閉しておくこと。
- P240 : 容器を接地しアースをとること。
- P241 : 防爆型の電気・換気・照明機器を使用すること。
- P242 : 火花を発生させない工具を使用すること。
- P243 : 静電気放電に対する措置を講ずること。
- P260 : 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入しないこと。
- P261 : 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
- P264 : 取扱い後は手をよく洗うこと。
- P270 : この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
- P271 : 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
- P273 : 環境への放出を避けること。
- P280 : 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

緊急措置

- P302+P352 : 皮膚に付着した場合 : 多量の水と石鹸で洗うこと。
- P303+P361+P353 : 皮膚(または髪)に付着した場合 : 直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと/取り除くこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。
- P304+P340 : 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- P305+P351+P338 : 眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- P309+P311 : 暴露した時、または気分が悪い時は、医師に連絡すること。
- P312 : 気分が悪いときは医師に連絡すること。
- P321 : 特別な処置が必要である。
- P332+P313 : 皮膚刺激が生じた場合 : 医師の診断/手当てを受けること。
- P337+P313 : 眼の刺激が続く場合 : 医師の診断/手当てを受けること。
- P362+P364 : 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- P370+P378 : 火災の場合 : 消火するために指定された消火剤を使用すること。

保管方法

- P403+P235 : 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
- P405 : 施錠して保管すること。

廃棄方法

P391：漏出物を回収すること。

P501：内容物／容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

3. 組成および成分情報

単一製品・混合物の区別：混合物

化学名/成分	化学式	官報公示整理番号	CAS No.	含有量
アルキルエステル系溶剤	-	-	-	90～70%
脂環式炭化水素系溶剤	-	-	-	30～10%
安定剤	-	-	-	1%未満

4. 応急措置

一般的な応急措置

気分が悪い時は、医師の診察/手当てを受けること。

気分が悪い時は医師に連絡すること。

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

皮膚(又は髪)に付着した場合

直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当てを受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。

気分が悪い時は、医師の診断/手当てを受けること。

5. 火災時の措置

消火剤：二酸化炭素、粉末消火剤、泡消火剤、乾燥砂類

使ってはならない消火剤：棒状放水、水噴霧

特有の危険有害性：極めて燃え易い、熱、火花、火災で容易に発火する。

加熱により容器が爆発するおそれがある。

消火後再び発火するおそれがある。

火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。

特有の消火方法：危険でなければ火災区域から容器を移動する。

容器が熱に晒されているときは、移動させない。

安全に対処できるならば着火源を除去すること。

消火を行う者の保護：消火作業の際は適切な空気呼吸器、保護衣(耐熱性)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

全ての着火源を取り除く。

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。

関係者以外の立入りを禁止する。

密閉された場所に立ち入る前に換気する。

環境に対する注意事項

環境中に放出してはならない。

回収、中和

不活性材料(たとえば、乾燥砂又は土等)で流出物を吸収して、化学品廃棄容器に入れる。

封じ込め及び浄化の方法・機材

全ての着火源を速やかに取り除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱および保管上の注意

取扱い

技術的対策 : 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

局所排気、全体排気 : 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。

安全取扱注意事項 : 取扱い後はよく手を洗うこと。

この製品を使用するとき、飲食又は喫煙をしないこと。

消防法の規則に従う。

ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。

屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。

皮膚と接触しないこと。

眼に入れないこと。

接触回避 : 「10. 安全性及び反応性」を参照。

保管

技術的対策 : 消防法の規則に従う。

混色危険物質 : 「10. 安全性及び反応性」を参照。

保管条件 : 容器を密閉して冷乾所にて保存すること。

換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

容器包装材料 : データなし

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度 : (作業環境評価基準 1995) 200ppm 酢酸エチル

許容濃度 : 日本産業衛生学会(2020)許容濃度 200ppm 720mg/m² 酢酸エチル

設備対策 : 製造業者が指定する防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。

静電気放電に対する予防措置を講ずること。

この物質を貯蔵ないし取り扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

空気中の濃度を暴露限度以下に保つために廃棄用の換気を行うこと。

高熱工程でミストが発生するときは、空気汚染物質を管理濃度以下に保つために換気装置を設置する。

保護具 : <呼吸用保護具> 有機ガス用防毒マスク、自給式空気呼吸器

<保護眼鏡> 側板付き安全眼鏡

<保護手袋> 耐溶剤性のゴム手袋(不浸透性)

<保護衣> 耐溶剤性の保護衣、保護長靴、保護前掛け

衛生対策 : 取扱後はよく手を洗うこと。

9. 物理的および化学的性質

形状	: 液体
色	: 無色透明
臭い	: エステル臭
沸点	: データなし
蒸気圧	: データなし
比重	: 0.8675 (20℃)
溶解度(水)	: 水に難溶
引火点	: -5℃(タグ密閉式)
発火点	: 295℃以上
爆発限界	: データなし
燃焼性	: 引火性あり
発火性	: なし(自然発火性、水との反応性)
酸化性	: なし
自己反応性	: なし

10. 安定性および反応性

安定性	: 法規制に従った保管及び取扱いにおいては安定と考えられる。 加熱すると激しく燃焼、爆発することがある。
危険有害	: 紫外線、塩基、酸の影響下で分解する。
反応性	: 強酸化剤とは反応し、火災や爆発の危険をもたらす。 紫外線、高温、強酸化剤、強アルカリとの接触回避。 アルミニウム、プラスチックを侵す。
避けるべき条件	: 加熱。
混触危険物質	: 強力な酸化剤、塩基、または酸。
危険有害な分解性生物	: データなし。

11. 有害性情報

情報なし

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性	: 水生生物に強い毒性
水生環境慢性有害性	: 区分外
残留性・分解性	: 情報なし
生態蓄積性	: 情報なし
土壤中の移動性	: 情報なし
他の有害影響	: 情報なし
環境基準	: 情報なし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 廃棄においては関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこに委託して処理する。廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を告知の上、処理を委託する。

汚染容器及び包装 : 関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、

内容物を完全に除去する。

1 4. 輸送上の注意

国際規制

国連番号 : 1173 (その他の引火性液体)

等級 : 3

容器等級 : II

海上規制情報 : IMO の規定に従う。

航空規制情報 : ICAO の規定に従う。

国内規制

国連番号 : 1173、等級 3、容器等級 II

指針番号 : 129

陸上規制情報 : 消防法、及び毒物劇物取扱法の規定に従う。

海上規制情報 : 船舶安全法の規定に従う。

海洋汚染物質 非該当

航空規制情報 : 航空法の規定に従う。

特別の安全対策: 堅牢で容易に変形、破損しない容器に入れて輸送する。輸送に際しては、直射日光を避け、容器の液漏れの無いことを確かめ荷崩れの防止を確実に行う他、当データシートの取扱い、保管上の注意事項を参照する。
重量物を上積みしない。

1 5. 適用法令

労働安全衛生法令 : 法第 57 条、施行令第 18 条別表第 9 (名称等を表示すべき有害物) 酢酸エチル
法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 別表第 9 (名称等を通知すべき有害物) 酢酸エチル
リスクアセスメントを実施すべき危険有害物(法第 57 条の 3) 酢酸エチル
施行令別表第 1 第 4 号(危険物・引火性のもの)
有機溶剤中毒予防規則 第 2 種有機溶剤 酢酸エチル
法第 65 条の 2 第 1 項(作業環境評価基準) 酢酸エチル
海洋汚染防止法 : 施行令別表第 1 (有害液体物質 Z 類物質) 酢酸エチル
消防法 : 第 4 類引火性液体、第一石油類非水溶性液体(危険等級 II)
毒物及び劇物取締り法 : 指定令第 2 条、政令番号 : 30 の 3 (劇物) を含む 酢酸エチル
船舶安全法 : 危規則第 3 条危険物告示別表第 1 (引火性液体)
航空法 : 施工規則第 194 条危険物告示別表第 1 (引火性液体類)
特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律 (PRTR 法) : 非該当
労働基準法 : 法第 75 条第 2 項、施工規則第 35 条、別表第 1 の 2 第 4 号 1・昭 53 労告 36 号(疾病化学物質) 酢酸エチル

1 6. その他情報

荷姿 : 18L 金属缶容器入り

注釈 : 本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。

また、注意事項は通常の手配を対としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。

本製品のもつ特性に関しての、品質保証を意味するものではありません。